巻　頭　言

「ザンクト・ガレン修道院附属図書館Stiftsbibliothek St.Gallenのご紹介」

一般教科　桐 川　　修

スイスの北東部、チューリッヒZürichから東に約80 kmのところにザンクト・ガレンSt.（=Sankt）Gallenという名前の町があります。ザンクトというのはドイツ語で『聖なる』（英語ではSaint）、ガレンはアイルランドのキリスト教修道士ガルスGallusに由来し、いかにもこの町がキリスト教の伝道と関係があることを示しています。町の中心部には二つの塔を持つバロック建築の壮麗な大聖堂（修道院教会）がそびえています。聖ガルスが7世紀にこの地に伝道のための拠点を設け、それが8世紀に修道院に発展し、その後中世においてはヨーロッパを代表する修道院となりました。修道院とは修道士たちが共同生活をおこないながらキリスト教の教えを守り、祈りと労働の日々を送るところです。キリストの教え、つまりは聖書の教えということで、修道士たちは聖書の書写に大いに励んでいました。当時はまだ印刷技術は発明されておらず、書写はもっぱら修道士たちの手でおこなわれていました。これらの書物、一般には写本と呼ばれますが、現在でも多数残っており、附属の図書館で大切に保管されています。このザンクト・ガレン修道院附属図書館は、いまでは世界有数のヨーロッパ中世写本を所蔵する図書館となっています。図書館は一般に公開されており、だれでも見学、利用することができます。図書館内部は随所にバロック風の装飾がほどこされ、とりわけバロックホールBarocksaalに足を踏み入れれば、誰もがその美しさに驚きの声をあげるほどです。この図書館は世界で最も美しい図書館のひとつに数えられており、1983年に世界文化遺産に登録されました。

License: CC-BY-NC – St. Gallen, Stiftsbibliothek, Cod. Sang. 857, p. 291 – The St. Gall Nibelung manuscript B with the Nibelungenlied (The Song of the Nibelungs) and "Klage" (lament), "Parzival" and "Willehalm" by Wolfram von Eschenbach, and Stricker's "Karl der Grosse" (Charlemagne) (http://www.e-codices.unifr.ch/en/csg/0857/291)

ところで、修道士たちは聖書の書写だけでなく当時の騎士階級の間で流行していた物語（英雄叙事詩）の写本も作成しています。これらも今日まで伝えられ、とりわけ古いドイツ語の研究にとって貴重な資料を提供しています。私も2001年にはじめてこの図書館を訪れる機会を得ました。学生時代以来、中世のドイツ語に興味を持ち、現在でも少しずついろいろな作品を読んでいますので、バロックホールの陳列ケースに入った『ニーベルンゲンの歌Das Nibelungenlied』や『パルチヴァールParzival』の写本を見て今から1000年近く前の修道士たちの営みに思いを馳せたのでした。みなさんもスイスへ行く機会がありましたらぜひ一度この図書館を訪れてはいかがでしょうか。

（ザンクト・ガレン修道院附属図書館のホームページ：http://www.stibi.ch/
ドイツ語だけでなく英語、フランス語、イタリア語のページもあります。）